

会 告

平成 29 年度日本水産学会社員総会ならびに学会賞・論文賞授賞式のお知らせ

日 時	平成 29 年 3 月 28 日(火) 13:00~15:20
場 所	東京海洋大学品川キャンパス大講義室 東京都港区港南 4-5-7
次 第	会長挨拶 平成 29 年度春季大会委員長の挨拶 議題 第 1 号議案 平成 28 年度事業報告ならびに貸借対照表, 正味財産増減計算書及び財産目録承認の件 第 2 号議案 増員による平成 29 年度役員(理事)選任の件 報告 平成 28 年度学会賞及び論文賞の授与 平成 28 年度日本水産学会功績賞受賞者の挨拶 その他

総会の委任状について (お願い)

定款第 17 条, 第 18 条により, 総会は総社員(正会員)の過半数の出席で成立となります。

日本水産学会正会員数は 2,988 名(1 月末現在)ですので, 過半数である 1,495 名以上の出席者が必要ですが, 出席できない社員(正会員)は他の社員を代理人として表決を委任することができ, その社員(委任状の提出者)は出席したものとみなされます。

つきましては, 総会に欠席予定の正会員の方は, 委任状に記名捺印をいただき, 平成 29 年 3 月 24 日(金)必着で投函下さいますようお願い申し上げます。

総会にご出席をお願いいたします。
欠席予定の方は必ず委任状をお送りください。

日本水産学会創立 85 周年記念事業へ寄附のお願い

国際シンポジウムをはじめとする創立 85 周年記念事業を成功させるために, 日本水産学会では皆さまからのご援助をお願いしております。格別のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

寄附申込み及び払込期限

申込み: 平成 29 年 8 月 31 日まで

払込み: 平成 29 年 8 月 31 日まで

寄附金の使途

日本水産学会創立 85 周年記念事業(国際シンポジウム, 資料集の編纂および刊行, 研究の動向の編集および刊行, デジタル版水産学用語辞典の編纂および刊行, 記念式典・レセプション)の経費に充当します。

申込み方法など詳細

日本水産学会創立 85 周年記念事業のホームページをご覧ください。

<https://www.gakkai-web.net/gakkai/jsfs/memorial/index.html>

寄附金申込み先・問い合わせ先

日本水産学会創立 85 周年記念事業募金委員会

幹事 佐野元彦

〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7 東京海洋大学内
 TEL 03-5463-0554 FAX 03-3471-2054
 メール 85th-jsfs@jsfs.jp

平成 29 年度日本水産学会北海道支部大会の開催について（予告）

北海道支部長 安井 肇

日 時 平成 29 年 12 月 9 日(土) 13:00-17:30, 10日(日) 9:00-17:00
 会 場 北海道大学国際連携機構 (12月9日:札幌市北区北15条西8丁目)
 北海道大学大学院環境科学院 (12月10日:札幌市北区北10条西5丁目)

大会委員長 梶山雅秀 (北海道大学国際連携機構)

大会の日程, シンポジウム, 参加および講演申し込みなどの詳細は, 日本水産学会誌 83 巻 5 号 (9 月号) でお知らせいたします。

問い合わせ先

平成 29 年度日本水産学会北海道支部大会事務局
 〒005-8601 札幌市南区南沢 5 条 1 丁目 1-1
 東海大学生物学部 櫻井 泉
 Tel: 011-571-5111 E-mail: sakurai@tokai.ac.jp

第 28 回食品ハイドロコロイドシンポジウムの開催について

標記シンポジウムが日本水産学会協賛のもと下記のとおり開催されますのでお知らせします。

記

主 催 食品ハイドロコロイド研究会
 日 時 平成 29 年 5 月 16 日(火) 9:20~17:20
 場 所 東京海洋大学楽水会館大会議室
 定 員 95 名 (申込先着順)
 参加費
 主催研究会会員 5,000 円 (学生会員 1,000 円)
 一般 8,000 円, 大学・官公庁 7,000 円, 学生 3,000 円

問い合わせ先

〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7
 東京海洋大学海洋科学系
 食品ハイドロコロイド研究会
 世話人 松川真吾
 e-mail sympo@food.hydrocolloids.org
 プログラムなど詳細は, 主催研究会 HP (<http://food.hydrocolloids.org/>) をご覧ください。

食品ハイドロコロイドセミナー 2017 の開催について

標記セミナーが日本水産学会協賛のもと下記のとおり

開催されますのでお知らせします。

記

主 催 食品ハイドロコロイド研究会
 日 時 平成 29 年 5 月 17 日(水) 9:00~12:30
 場 所 東京海洋大学楽水会館大会議室
 定 員 95 名 (申込先着順)
 参加費
 主催研究会会員 4,000 円 (学生会員 1,000 円)
 一般 7,000 円, 大学・官公庁 6,000 円, 学生 3,000 円

問い合わせ先

〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7
 東京海洋大学海洋科学系
 食品ハイドロコロイド研究会
 世話人 松川真吾
 e-mail sympo@food.hydrocolloids.org
 プログラムなど詳細は, 主催研究会 HP (<http://food.hydrocolloids.org/>) をご覧ください。

日本応用藻類学会第 16 回大会の開催について

標記大会が日本水産学会協賛のもと下記のとおり開催されますのでお知らせします。

記

主 催 日本応用藻類学会
 日 時 平成 29 年 5 月 27 日(土)
 場 所 東京海洋大学品川キャンパス

発表申込締切 平成 29 年 5 月 1 日(月)
 参加登録締切 平成 29 年 5 月 19 日(金)
 (当日参加もできます)

参加費

事前：主催学会会員 1,000 円，非会員 3,000 円
 当日：主催学会会員 2,000 円，非会員 3,000 円

問い合わせ先

〒771-0361 徳島県鳴門市瀬戸内町堂浦地廻り壱 96-10-2

徳島県農林水産総合技術支援センター水産研究課環境増養殖担当

日本応用藻類学会庶務 棚田教生

TEL (088)688-0555 FAX (088)688-1622

e-mail soc_appl_phycol@yahoo.co.jp

プログラムなど詳細は、主催学会 HP (<http://jsap.web.fc2.com/>) をご覧ください。

マリンケミカルバイオロジー研究会 2017 講演会の開催について

標記講演会が下記のとおり開催されますのでお知らせします。

記

主 催 マリンケミカルバイオロジー研究会
 日 時 平成 29 年 3 月 26 日(日) 16:00~18:00
 場 所 東京海洋大学品川キャンパス
 プログラム

- ウナギ仔魚の飼育技術の高度化に関する研究開発
 増田賢嗣 (水産機構)
- 北海道産水産副次産物油脂の利用—魚油ばかりじゃない水産油脂—
 高橋是太郎 (北大院水)

参加費 無料

参加申込締切 平成 29 年 3 月 23 日(水)
 (当日参加も可能です)

問い合わせ先

東京大学大学院農学生命科学研究科
 水圏生物科学専攻内
 マリンバイオケミカルバイオロジー研究会 2017 実行委員会

世話人 松永茂樹

TEL (03)5841-5297

e-mail assmats★mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

(★を@に変えて送信してください)

申込方法など詳細は、主催研究会へお問い合わせください。

第 66 回伝統食品に関する講演会の開催について

標記講演会が下記のとおり開催されますのでお知らせします。

記

主 催 日本伝統食品研究会
 日 時 平成 29 年 4 月 22 日(土) 13:00~17:00
 場 所 東京家政大学板橋キャンパス
 テーマ ガッテン 伝統食品
 会場整理費 1,000 円

問い合わせ先

研究会事務局

京都大学大学院農学研究科 (豊原治彦)

TEL・FAX (075)753-6446

e-mail toyohara★kais.kyoto-u.ac.jp

(★と@に変えて送信してください)

講演会問合せ先

東京家政大学 (宮尾茂雄)

TEL・FAX (03)3961-7573

e-mail miyao★tokyo-kasei.ac.jp

(★と@に変えて送信してください)

プログラムなど詳細は、主催研究会 HP (<http://dentous.web.fc2.com/index.html>) をご覧ください。

水産・水圏生物 分野における GIS・空間解析に関する第 7 回国際シンポジウム Seventh International Symposium on GIS/Spatial Analyses in Fishery and Aquatic Sciences の開催について

標記シンポジウムが下記のとおり開催されますのでお知らせします。

記

主 催 International Fishery GIS Society
 (国際水産 GIS 学会)

日 程 平成 29 年 8 月 21 日(月)~25 日(金)

場 所 函館市 国際水産・海洋総合研究センター

申込締切 平成 29 年 5 月 30 日(火)

問い合わせ先

〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 2-4-1

ノーブルビル 2 階

環境シミュレーション研究所内

International Fishery GIS Society (国際水産 GIS 学会) 事務局

(代表：西田 勤・伊藤喜代志)

TEL (049)242-9262 FAX (049)241-2442

e-mail fish-gis@smile.odn.ne.jp

プログラムなど詳細は、主催学会HP (<http://www.esl.co.jp/Sympo/7th/index.htm>) をご覧ください

第 33 回国際生物学賞受賞候補者の推薦について

(脚)日本学術振興会では、生物学の奨励のために、国際生物学賞を贈呈しております。要領、推薦書などは(脚)日本学術振興会 HP (<http://www.jsps.go.jp/j-biol/index.html>) をご確認ください。

日本水産学会から推薦を希望される方は、平成 29 年 3 月 31 日(金)までに推薦に必要な書類一式を日本水産

学会事務局へご提出ください。学会賞選考委員会において推薦の可否を検討させていただきます。

記

対象者 生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ、世界の学術の進歩に大きな貢献をした研究者

対象分野 海洋生物学 (Marine Biology)

問い合わせ先

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-3-1

(脚)日本学術会議 国際生物学賞委員会事務局

e-mail ip-biology@jsps.go.jp

会 報

公益社団法人 日本水産学会 平成 28 年度第 6 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 28 年 12 月 10 日(土) 13 時 02 分～15 時 10 分
- 2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学
品川キャンパス 2 号館 2 階 200A-2 会議室 (東京都港区港南 4-5-7)
- 3 理事総数及び定足数
総数 17 名, 定足数 9 名
- 4 出席理事数 13 名
(本人出席) 秋山秀樹, 荒井克俊, 荒井修亮, 菅野信弘, 木島明博, 黒倉 寿, 佐藤秀一, 青海忠久, 塚本勝巳, 萩原 篤志, 山下 洋, 良永知義, 和田時夫
(監事出席) 青木一郎, 北田修一
(幹事出席) 荒川久幸, 鈴木直樹 (13 時 10 分に着席), 芳賀 穰, 糸井史朗, 二見邦彦, 小林武志
(オブザーバー) 岡崎恵美子 (理事候補者), 重 義行 (理事候補者)
- 5 議 案
決議事項 第 1 号議案 「東北支部長の交代」の件
第 2 号議案 「平成 28 年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件
第 3 号議案 「水産政策委員会運営規程の一部改正」の件
第 4 号議案 「会費免除承認」の件
第 5 号議案 「水産増殖懇話会委員会委員の交代」
第 6 号議案 「Fisheries Science 83 巻における会員販売促進の継続」の件
第 7 号議案 「後援」の件
第 8 号議案 「入会承認」の件
第 9 号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件
報告事項 ①第 5 回理事会以降の職務執行の状況
②その他
- 6 議事の経過及びその結果
 - (1) 定足数の確認等
塚本会長が定足数の充足を確認し, 続いて本会議の議事進行について説明があった。
 - (2) 議案の審議状況及び議決結果等
定款の規定に基づき, 塚本会長が議長となり, 本会議の成立を宣言し, 議案の審議に移った。(決議事項)
第 1 号議案 「東北支部長の交代」の件
佐藤総務担当理事から, 現東北支部長の定年退職に伴う交代の申し出について説明があった。審議の結果, 東北支部長の交代を出席理事全員一致で可決した。
第 2 号議案 「平成 28 年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件
荒井 (克) 学会賞担当理事より, 9 月 8 日に開催された学会賞選考委員会において審議した平成 28 年度日本水産学会各賞受賞者について原案の説明があった。審議の結果, 同選考結果の説明資料を一部修正し, 出席理事全員一致で原案の通り可決した。
日本水産学会賞
今井一郎 「有害有毒プランクトンの発生機構と発生防除に関する研究」
菊池 潔 「ゲノムワイド解析によるフグ性決定遺伝子の同定」
日本水産学会功績賞
嵯峨直恆 「水産植物学研究を生かした社会連携の体系化」
杉田治男 「水産増養殖に関する微生物学的研究」

日本水産学会進歩賞

- 江口 充 「魚類養殖に関わる環境微生物の生理生態学的研究」
- 岡村 寛 「統計モデルを利用した斬新な水産資源評価・管理手法の開発」
- 北門利英 「水産資源解析における推測法高度化と遺伝学的モデリングに関する統計学的研究」
- 藤本貴史 「ドジョウをモデルとした発生・生殖生物学と育種支援技術開発に関する研究」

水産学奨励賞

- 高野倫一 「分子生物学的手法を応用した魚類病原体に対するワクチンの開発」
- 長澤一衛 「分子マーカーによる水産上有用魚貝類の生殖細胞の同定に関する研究」
- 渡邊壯一 「浸透圧調節ホルモンプロラクチンの分泌調節ならびにその作用に関する研究」

水産学技術賞

- 水藤勝喜 「クルマエビ採卵技術の高度化とその普及」
- 野口勝明 「温泉水を用いた閉鎖循環型トラフグ養殖システムの開発」
- 増田賢嗣 「ウナギ仔魚の飼育技術の高度化に関する研究開発」

第3号議案 「水産政策委員会運営規程の一部改正」の件（別紙1）

黒倉水産政策担当理事から、水産政策委員会運営規程の一部改正について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第4号議案 「会費免除承認」の件

佐藤総務担当理事から、磯 直道、柏井 誠、春日清一、下村道子、難波憲二、林 勇夫および山川 紘各会員の会員に関する規則第5条(1)に基づく会費免除申請について説明があった。審議の結果、申請のあった7名の会員の会費を平成28年度から免除することを出席理事全員一致で可決した。

第5号議案 「水産増殖懇話会委員会委員の交代」の件

佐藤総務担当理事より、水産増殖懇話会委員会委員の交代について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

[辞退] 清水智仁 [選出] 武部孝行

第6号議案 「Fisheries Science 83巻における会員販売促進の継続」の件

佐藤総務担当理事から、Fisheries Science 83巻における会員購読促進の継続について説明があった。審議の結果、会員販売促進の継続を出席理事全員一致で可決した。

第7号議案 「後援」の件

佐藤総務担当理事から、後援について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

①The 14th International Symposium on Biomineralization（第14回国際バイオミネラルイゼーションシンポジウム）

- 主催 バイオミネラルイゼーション研究会
- 後援 日本農芸化学会 他10団体
- 日程 平成29年10月9日(月)～13日(金)
- 場所 つくば国際会議場（茨城県つくば市）
- 希望 後援
- 負担金 なし

②The 16th International Echinoderm Conference（第16回国際棘皮動物学会議）

- 主催 第16回国際棘皮動物学会議組織委員会
- 共催 名古屋大学博物館
- 後援 日本動物学会、日本古生物学会
- 日程 平成30年5月28日(月)～6月1日(金)
- 場所 名古屋大学東山キャンパス野依記念学術交流館（愛知県名古屋市）
- 希望 後援
- 負担金 なし

第8号議案 「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第9号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

(報告事項)

①第5回理事会以降の職務執行の状況

• 会長

塚本会長より、次の報告があった。

- 1) 11月16日に開催されたブループラネット賞の表彰式に出席した。
- 2) 11月21日に開催された国際生物学賞の授賞式に出席した。
- 3) 12月3日に開催された海とさかな自由研究・作品コンクールの表彰式に出席し、日本水産学会会長賞を授与した。

• 庶務関係

佐藤総務担当理事より、次の報告があった。

- 1) 資格喪失者（会費未納）の会費納入による退会者への変更について
前川行幸（正会員，平成27年度資格喪失）
- 2) 協賛について

共催，協賛，後援の取り扱い申し合わせ3)を適用した。

①第54回アイソトープ・放射線研究発表会

主催 日本アイソトープ協会
 協賛 応用物理学会 他61団体（予定）
 日時 平成29年7月
 場所 東京大学農学部弥生講堂（東京都文京区）
 希望 協賛
 負担金 なし

• 企画広報関係

良永担当理事より、次の報告があった

- 1) 第6回委員会を11月9日に開催した。
- 2) CiNiiのみに掲載されている日本水産学会誌65巻1号～75巻1号の企画記事のCiNiiにおける公開が2017年3月に終了する。

• 財務関係

山下担当理事より、各支部と各委員会等の担当理事に対し、事業計画・予算書と事業報告・決算報告の提出期限を厳守するよう依頼があった。

• 編集関係

黒倉担当理事より、次の報告があった。

- 1) Fisheries Science 誌のインパクトファクターの低下への対応策を検討している。
- 2) 平成28年度国際情報発信強化事業進捗状況報告書について説明があった。

• 学会賞関係

荒井（克）担当理事より、各賞の推薦書式の変更を検討している旨報告があった。

• シンポジウム関係

木島担当理事 特になし。

• 出版関係

木島担当理事より、次の報告があった。

- 1) 水産学シリーズの発刊の準備を進めている。
- 2) 次回委員会を1月13日に開催する。

• 水産技術誌監修関係

秋山担当理事より、次の報告があった。

- 1) 水産技術誌9巻1号の発刊に向け11月14日に編集委員会を開催した。
- 2) 水産技術誌9巻2号の発刊に向け12月26日に編集委員会を開催する。
- 3) 「アサリの垂下養殖技術」に関する特集号を水産技術誌9巻3号として発行予定である。
- 4) 1月末に第1回委員会を開催する。

• 国際交流関係

和田担当理事より、次の報告があった。

- 1) 11月2～4日に開催された中国水産学会へ萩原副委員長と胡委員が参加した。
- 2) 中国水産学会と日本水産学会との学術交流協定を更新した。
 - 水産教育関係
 - 荒井（克）担当理事より、第35回「海とさかな」自由研究・作品コンクールについて報告があった。
 - 水産政策関係
 - 黒倉担当理事より、エコラベルの国際相互認証について議論を行っている旨報告があった。
 - 漁業・資源管理関係
 - 荒井（修）担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 平成29年度春季大会において、講演会「持続的漁業に最適な漁業技術とは」（仮）を3月26日に開催する。
 - 2) 委員会を3月26日に開催する。
 - 3) 平成29年度漁業懇話会奨励賞の受賞者（3名）を決定した。
 - 水産利用関係
 - 菅野担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 第2回講演会「HACCPと水産物流通」を1月6日に開催する。
 - 2) 第3回委員会を1月6日に開催する。
 - 水産増殖関係
 - 木島担当理事 特になし。
 - 水圏環境関係
 - 山下担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 平成29年度春季大会において、シンポジウム「水産環境におけるプラスチックの汚染と影響」を3月26日開催する。
 - 2) 類似したテーマのシンポジウムが同日に開催されないよう、可能な限り日程調整して欲しい旨依頼があった。
 - 男女共同参画関係
 - 良永担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 男女共同参画学協会連絡会によるアンケート調査が終了した。アンケート総回答数は約1800名で、そのうち水産学会からは約800名であった。
 - 2) 日本水産学会としても、アンケート結果を分析する。
 - 3) 平成29年度春季大会において、ランションセミナー「水産学会におけるやさしい男女共同参画」を開催する。
 - 社会連携関係
 - 塚本会長 特になし。
 - 将来計画関係
 - 青海担当理事より、各委員会等に将来に向けての問題提起等を各担当理事に照会するとの報告があった。
 - 北海道支部，地域連携関係
 - 塚本会長 特になし。
 - 東北支部，地域連携関係
 - 秋山担当理事より、次の報告があった。
 - 1) 平成28年度日本水産学会北海道-東北合同支部大会を10月22日と23日に開催した。参加者総数79名のうち講演数は56名であった。
 - 2) 北海道・東北支部の若手会の講演会「クロマグロの資源管理と漁業者，加工業者が生き残る道」を10月22日に開催した。
 - 3) 10月27日に開催された全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表大会の東北地区大会で支部長奨励賞を授与した。
 - 4) 幹事会と連絡調整委員会の合同会議を10月22日に開催した。
 - 関東支部，地域連携関係
 - 菅野担当理事より、平成29年度春季大会の準備状況について次の報告があった。
 - 1) 高校生の発表のための補助金を申請した。
 - 2) 大会のウェブページを公開し，参加申込の受付を開始した。
 - 3) 懇親会を東京海洋大学品川キャンパスの体育館で，ポスター発表を同中部講堂で行う。
 - 中部支部，地域連携関係

塚本会長より、次の報告があった。

- 1) 支部大会を12月3日に開催した。
- 2) ミニシンポジウム「若狭湾と若狭小浜を知って地域活性化につなげよう」を12月3日に開催した。
 - 近畿支部，地域連携関係

荒井(修)担当理事より，平成28年度日本水産学会近畿支部例会と幹事会を12月18日に開催する旨報告があった。
 - 中国・四国支部，地域連携関係

塚本会長より，次の報告があった。

 - 1) 平成28年度日本水産学会中国・四国支部例会を10月22日に開催した。参加者総数68名のうち日本水産学会会員は45名であった。
 - 2) ミニシンポジウム「瀬戸内海の漁業資源のいまとこれから」を10月23日に開催した。参加者総数30名のうち日本水産学会会員は28名であった。
 - 九州支部，地域連携関係

塚本会長より，次の報告があった。

 - 1) 平成28年度日本水産学会九州支部支部大会・総会・例会を12月10日と11日に開催する。
 - 2) 支部幹事会を12月10日に開催する。
 - 3) シンポジウム「水産物，水産加工品の高付加価値化のための品質測定・評価手法の開発」を12月11日に開催する。
 - 英文書籍監修委員会（特別委員会）

佐藤担当理事より，青木会員と竹内会員が執筆した原稿の査読を行っている旨報告があった。
 - 東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

山下担当理事より，次の報告があった。

 - 1) 公益社団法人日本水産学会における東日本大震災への対応および震災復興の関連活動（続編）を発行した。
 - 2) 日本原子力学会から学会誌の特集企画（東日本大震災と福島原発事故から6年 これまでを総括し，これからの展望する）に日本水産学会にも寄稿依頼があったが，過去の類似の特集や本委員も同誌に寄稿していることから，今回の依頼を見送った。
 - 水産学若手の会（特別委員会）

塚本会長 特になし
 - 日本水産学会創立85周年記念事業委員会（特別委員会）

青海担当理事より，次の説明があった。

 - 1) 国際シンポジウム
 - a) 開催に向けてタイムテーブルが示された。
 - b) 参加・発表申込期限を4月10日から4月29日に変更する。
 - c) プロシーディングと要旨集のPDFファイルを保存したUSBフラッシュメモリーを参加者に配布する。さらに，それらを国際シンポジウムのウェブページにもアップロードする。
 - d) 参加費の支払いについて，電子決済が出来るようになる2月10日までは，銀行振込で対応する。
 - e) 大震災関連分野，環境・漁業分野およびバイオ・食品分野の基調講演をそれぞれ行う。現在，それらの講演者を選考中である。
 - 2) 史料編纂と研究の動向の編集作業は，順調に進んでいる。
 - 3) デジタル版水産学用語辞典
 - a) 基本的なデータの整理はほぼ終了し，冊子体原稿は7月までには完成する見込である。
 - b) デジタル版 水産学会のウェブページに掲載し，随時修正できるようにする。
 - 4) 9月21日に開催する記念式典について，招待者や内容について検討を進めている。
 - 5) 募金・協賛
 - a) 企業，団体および個人会員に，募金趣意書，協賛案内および協賛展示案内を送付し，現時点での企業と団体からの協賛の申込は14件，個人からの寄付は18件である。
 - b) 支部担当理事に支部を通じた企業，団体および個人会員の寄付への協力依頼が再度あった。
 - 財務検討委員会（特別委員会）

山下担当理事より，Fisheries Science 誌のインパクトファクターの低下への対応策への財政的な援助について検討を始める旨報告があった。

・水産・海洋科学研究連絡協議会関係

塚本会長より、次の報告があった。

1) 第2回協議会が11月14日に開催された。

a) 日本海洋政策学会が新たに加わった。

b) 名古屋議定書関連検討分科会で、研究用の生物試料を移動する際に、相手国の規制に則らなければならなくなったことに対する対応を検討している。

この件について、良永理事より、日本学術会議において提言を検討中である旨、海洋・水産関係では、東京海洋大学とJAMSTECがコンソーシアムを組み、各国での事例の収集と共有する旨補足説明があった。

2) 公開シンポジウム（成熟社会における持続可能な水産業のあり方と其中長期戦略）が11月18日に開催された。

参加者総数107名のうち日本水産学会会員は34名であった。

②その他確認事項

・日本学術会議会員・連携会員の候補者に関する情報提供について

佐藤総務担当理事より、次の説明があった。

1) 日本学術会議会員・連携会員の改選が10月に行われる。

2) 理事が適任者を推薦し、日本水産学会から推薦する者については会長に一任する。

・事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の提出日程について

佐藤総務担当理事より、平成28年度の決算処理等の日程について説明があり、日程に沿って各支部、懇話会及び委員会是对処するよう依頼があった。

・次回の理事会について

佐藤総務担当理事より、平成28年度第7回理事会を2月11日13時より東京海洋大学品川キャンパスで開催するとの説明があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、15時10分、議長は閉会を宣言し、解散した。

別紙 1

水産政策委員会運営規程一部改正

現 行	改 定
<p>(委員長及び副委員長)</p> <p>第2条 本委員会に委員長1名、副委員長1名を置く。</p> <p>2 委員長及び副委員長の選出は、委員会等設置規程第2条第3項の規定に拠る。</p> <p>(全文追加)</p>	<p>(委員長及び副委員長等)</p> <p>第2条 本委員会に委員長1名、副委員長1名を置く。</p> <p>2 委員長及び副委員長の選出は、委員会等設置規程第2条第3項の規定に拠る。</p> <p>3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員の任期は引続き4年を超えることはできない。副委員長の任期は委員の任期に準じることとする。なお、委員長については委員会等設置規程第2条第3項の規定に従って理事会で選出されることから、本規程内では任期に関する特段の規定は設けない。なお、任期の計算にあたっては、委員、副委員長、委員長の任期の期間はそれぞれ別のものとみなす。</p>
<p>附則 本規程は、公益認定を受け移行の登記を行った日から施行する。</p> <p>(平成25年6月8日 一部改正)</p> <p>(平成27年2月28日 一部改正)</p> <p>(平成28年3月13日 一部改正)</p>	<p>附則 本規程は、公益認定を受け移行の登記を行った日から施行する。</p> <p>(平成25年6月8日 一部改正)</p> <p>(平成27年2月28日 一部改正)</p> <p>(平成28年3月13日 一部改正)</p> <p>(平成28年12月10日 一部改正)</p>

新 入 会 (平成28年12月10日承認)

正 会 員 (5名) 北海道 大橋正臣 関東 三井翔太 中部 馬場 孝 近畿 根來 央 九州 木村 圭
 学生会員 (12名) 北海道 折野和樹, 梶原慧太郎 東北 佐川英樹 関東 高石鈴香, 原田真実 近畿 森川盾毅
 九州 石橋侑里香, 大畑翔梧, 高 樟俐, 加藤 司, 木村 響

平成28年度日本水産学会中部支部大会

日 時 平成28年12月3日(土) 11:00~16:10

場 所 福井県立大学海洋生物資源学部 (小浜キャンパス) 交流センター多目的ホール
 (〒917-0003 福井県小浜市学園町1-1)

プログラム

- 11:00~16:00 ポスター発表
- 12:10~12:50 平成28年度中部支部評議員会
- 13:00~13:30 平成28年度日本水産学会中部支部総会
- 13:00~16:10 ミニシンポジウム

ポスター発表

番号	演 題 名	筆頭演者	所 属
P1	<i>Rhodomonas</i> sp. の増殖相と脂肪酸組成	有 瀧 悠 大	三重大学
P2	卵形質多様化の進化遺伝基盤：タビラ類を例として	林 寿 樹	福井県立大学
P3	若狭カレイの製造における低温乾燥の重要性	平 田 三 春	福井県立大学
P4	マガキに蓄積するエクトイン類縁体の定量	細 井 公 富	福井県立大学
P5	若狭湾産海藻類における抗アレルギー成分の探索	五十嵐 彩 香	福井県立大学
P6	海産生物（イワガキ <i>Cassostorea nippona</i> ）と淡水魚（ニホンウナギ <i>Anguilla japonica</i> ）の脂質成分の比較	石名坂 優	石川県立大学
P7	数種アワビ類の脂質成分：食植性海産魚類との比較	磯 部 由 利 恵	石川県立大学
P8	マサバへしこ及びなれずしエキスの PAI-1 阻害活性と消化管酵素の影響	伊 藤 光 史	福井県立大学
P9	プロモデオキシウリジン免疫沈降法（BrdU-IC）を用いた春季親潮珪藻ブルームにおける活発に増殖する細菌群集	片 岡 剛 文	福井県立大学
P10	福井県南川水系榎谷川における落差工の魚道設置効果	片 山 暢	福井県立大学
P11	山形県釜磯海岸において海底湧水がメイオベントスの生息環境と空間分布に及ぼす影響	北 川 勝 博	福井県立大学
P12	養殖カキを有効活用するためのカキ魚醤の商品化についての研究	熊 谷 碧	福井県立 若狭高等学校
P13	湖沼の嫌気堆積物中の従属栄養性微小鞭毛虫の現存量	前 川 鈴 香	福井県立大学
P14	マイクロプラスチックへの挑戦！ ～小浜湾におけるマイクロプラスチックの分布調査～	松 井 幹 典	福井県立 若狭高等学校
P15	南西諸島海域で採集されたマグロ属稚魚 2 種の相対成長と食性	宮 崎 陽 介	三重大学
P16	琵琶湖ウツセミカジカの着底輪の推定	水 嶋 亨	福井県立大学
P17	マナマコ体壁に存在する 400 kDa 糖タンパク質の特性	水 田 尚 志	福井県立大学
P18	珪藻の珪酸質細胞壁を裏打ちする有機層の構造的な特性	中 村 憲 章	福井県立大学
P19	近縁な海産・淡水産シオグサの遺伝的多様性と分布パターンの比較	丹 羽 一 夫	福井県立大学
P20	トラフグ好塩基球は寄生虫因子の投与部位へ遊走する	小 高 智 之	福井県立大学
P21	若狭産スジアオノリの生理特性と生育環境の関連性	小 川 拓	福井県立大学
P22	アワビ類の初期生残に与える短期塩分変動の影響	岡 春 菜	三重大学
P23	スイゼンジノリ分離株を用いた室内培養と細胞外多糖生産	大 城 香	福井県立大学
P24	海藻群落が流れ場に与える影響に関する実験的研究	大 西 謙 吾	福井県立大学
P25	小浜湾におけるアマモの分布と海底湧水の関係	大 住 一 平	福井県立 若狭高等学校
P26	Effects of salinity and turbidity on survival, growth of germlings of <i>Sargassum fusiforme</i>	Phan Thi Cam Tu	三重大学
P27	夏季の国東半島における河川水中の溶存無機態窒素・リンの動態の俯瞰的評価	理 堀 隆 人	福井県立大学
P28	魚肉中への NaCl の浸透特性に及ぼす凍結-解凍の影響	三 枝 史 晃	福井県立大学
P29	テーパ付き円柱構造物の上下混合促進機構	瀬 戸 雅 文	福井県立大学
P30	魚類の補体受容体候補遺伝子	末 武 弘 章	福井県立大学
P31	若狭湾産海藻に含まれる新規抗炎症成分の探索	田 上 真 衣	福井県立大学
P32	海の分解者ラビリント菌の細胞外プロテアーゼ Profile	高 尾 祥 丈	福井県立大学
P33	魚肉の保水性からみた一夜干しの品質と食塩含量の関係	竹 田 祐 也	福井県立大学
P34	褐藻類アカモクの成熟に関する分子生物学的研究	吉 川 伸 哉	福井県立大学
P35	ADCP の音響散乱強度データを利用した漁場環境指標の検討	吉 川 泰 広	福井県立大学

ミニシンポジウム

テーマ 若狭湾と若狭小浜を知って地域活性化につなげよう

企画責任者 宮台俊明・富永 修・横山芳博

開会挨拶

宮台俊明（福井県大海洋生物資源）

座長：横山芳博（福井県大海洋生物資源）

若狭湾の海洋環境～水産資源を育む恵みの水～

杉本 亮（福井県大海洋生物資源）

若狭湾の海洋生物資源の現状と展望～越前がにを中心に～

河野展久（福井県農林水産部水産課）

若狭湾の新規養殖対象種マサバとニジマスの生態と家魚化について

富永 修（福井県大海洋生物資源）

若狭小浜地域の食文化～水産物を中心に～

中田典子（小浜市政策専門員・食育）

若狭小浜の水産業を核としたまちづくり

御子柴北斗（小浜市役所産業部）

総合討論

閉会の辞

横山芳博（福井県大海洋生物資源）

平成 28 年度日本水産学会九州支部総会・大会・例会

日 程 平成 28 年 12 月 10 日(土)・11 日(日)

場 所 長崎大学水産学部

プログラム

12 月 10 日(土)

13:00 総会

13:30 大会 一般研究発表（口頭発表）

16:30 大会 高校生による研究発表（ポスター発表）

17:45 大会 表彰式

12月11日(日)

9:00 例会 シンポジウム

一般研究発表

（第 1 会場）

1-01 クォンティフェロンは魚類ミコバクテリア症で応用し得るか

°早志和真・松本 萌（鹿大水）・中西照幸（日大生物資源）・荒木亨介・山本 淳（鹿大水）

1-02 *Edwardsiella tarda* 菌体外産生物質暴露に伴うマクロファージ細胞株 mRNA レベルでの応答

°前田大輝・東谷福太郎・小田達也・金井欣也・吉田朝美・長富 潔（長大院水環）

1-03 ヒラメ Mn-SOD 遺伝子の転写制御領域の探索

°石橋侑里香・長富 潔・吉田朝美（長大院水環）

1-04 ヒスタミン産生菌 *M. morgani* 食中毒分離株からの HDC 遺伝子のクローニング及びその発現系の構築

°高 禎俐（長大院水環）・蔡 国喜・田栗利紹・本多 隆（長崎県環境保健研究センター）・吉田朝美・長富 潔（長大院水環）

1-05 マサバにおける TALEN を用いた AVTR-V1a2 遺伝子のノックアウト

°柴田康暉（九大院生資環）・大賀浩史（九大院農）・長野直樹・坂口圭史・北野 戴（九大院農唐津水研セ）・久原 哲・田代康介・金 相完（九大院農）・山本 卓・佐久間哲史（広大院理）・玄浩一郎（水研機構西海水研）・藤原篤志（水研機構中央水研）・風藤行紀（水研機構増養研）・小林敬典（水研機構本部）・松山倫也（九大院農）

1-06 サバ科魚類における Kiss1 コアペプチドのアミノ酸配列

°赤瀬美美子（九大農）・大賀浩史・山口明彦・太田耕平・松山倫也（九大院農）

1-07 Evaluation and branding of full-life cycle cultured chub mackerel, Karatsu Q-Saba

°Mizuki Ozuka・Naoki Nagano・Hajime Kitano・Keishi Sakaguchi・Michiya Matsuyama

1-08 持続的養殖プロ研マグロ-34：養成クロマグロ 1 尾当たりの産卵間隔および産卵数の推定

°鈴木絢子・玄浩一郎（水産機構西海水研）・斉藤憲治・關野正志（水産機構中央水研）・菅谷琢磨（水産機構瀬水研）・岡 雅一（水産機構西海水研）

- 1-09 大型養殖魚における低コスト受精卵供給技術の開発に向けた取り組み
 °樋口健太郎・吉田一範・玄浩一郎・高志利宜・虫明敬一（水産機構西海水研）・征矢野清（長大海セ）
- 1-10 シロギスの天然魚と飼育環境下におけるコルチゾル濃度の変化
 °山田雄太（長大院水環）・有瀧真人（福山大生命工）・田川正朋（京大院農）・征矢野清（長大海セ）
- 1-11 遠州灘産天然交雑フグの毒性
 °福田 遼（長大院水環）・佐々木杜汰（長大水）・菅向志郎・高谷智裕・荒川 修（長大院水環）
- （第2会場）
- 2-01 超閉鎖性内湾の季節的な貧酸素化にともなう水柱細菌群集の組成変化
 °鷲尾昂祐・東健太郎・山喜邦次・森 郁晃・梅澤 有（長大院水環）・近藤竜二（福井県大海洋生資）・和田実（長大院水環）
- 2-02 大村湾の貧酸素水塊形成期における水柱微生物群集呼吸の動態
 °東健太郎・森 郁晃・山喜邦次（長大院水環）・上田 遼（いであ株）・近藤竜二（福井県大海洋生資）・梅澤有・和田 実（長大院水環）
- 2-03 貧酸素水塊がタイラギ資源に与える影響解明のための予備的検討
 °長副 聡・徳永貴久・松山幸彦（水産機構西海水研）
- 2-04 クルマエビ飼育水の懸濁態粒子組成とアサリ稚貝飼育の試み
 °大畑翔梧（長大院水環）・山崎英樹・伊藤 篤（水産機構瀬戸内水研）・阪倉良孝（長大院水環）
- 2-05 海産ツボワムシ類と培養したカイアシ類を混合給餌した時のマダイ仔魚の飼育成績について
 °佐々木拓・桑原侑佑・小谷知也（鹿大水）
- 2-06 微細藻類 *Nannochloropsis oculata* の吸光特性を活かした海産ツボワムシ類 *Brachionus plicatilis* の栄養強化効率の向上
 °松井英明（鹿大院連農）・安楽和彦・小谷知也（鹿大水）
- 2-07 光環境が *Prorocentrum shikokuense* 赤潮の極大分布水深に与える影響
 °石田直也（対馬水産業普及指導セ）・山砥稔文・平野慶二・平江 想（長崎水試）
- 2-08 見た目では“カワイイ”と感じさせる魚の顔つきの特徴
 °井口恵一郎（長大院水環）・松本裕大（長大）
- 2-09 短期間で実施可能な魚類の輪くぐり学習実験手法の開発
 °高橋宏司（長大院水環）
- 2-10 赤潮被害低減を目的とした遮光幕下におけるブリの行動特性
 松山幸彦・°長副 聡・坂本達也（水産機構西海水研）・吉田 誠（香川県庁）
- 2-11 捕食者に対する体の向きがマダイ稚魚の逃避成功に及ぼす影響
 °木村 響・河端雄毅（長大院水環）
- 2-12 森と海をつなぐ海洋教育・ESD プロジェクトの試作と課題
 °下山田隆（佐賀市立成章中学校）

高校生による研究発表（第3会場）

- P-01 タマキビの生態に関する研究～タマキビが潮汐変化を認識するメカニズムの解明を目指して～
 °鶴田雅大・相川琉晴・酒井統和・杉山綾乃・山口絵莉・柿本拓海・田中颯翔・草野聡太・土橋すず（長崎北陽台高校）
- P-02 ヒジキの野外での生育状況と室内培養およびアラメの再生実験～藻場の再生を目指して～
 °土橋すず・°草野聡太・鶴田雅大・相川琉晴・柿本拓海・田中颯翔・酒井統和・杉山綾乃・山口絵莉（長崎北陽台高校）
- P-03 大村湾のタコクラゲの青色の謎と「タコクラゲー褐虫藻」共生系メカニズムの解明の基礎研究
 °柿本拓海・田中颯翔・土橋すず・鶴田雅大・相川琉晴・草野聡太（長崎北陽台高校）
- P-04 トラフグの診断
 °鬼塚優人・°小田隆典・相川琉晴・田中颯翔・塚本賀惟・渡邊克明（長崎北陽台高校）
- P-05 海苔のノリノリ♪種判別
 °溝田真子・°岡本駿汰・柿本拓海・川端孔耀・中原 幹・安田 拓・山本武蔵（長崎北陽台高校）
- P-06 魚の“バーコード”？

°山田こつる・柳原明莉・七瀬 唯・柴 風香・前田悠明華・瀧口朋花・大塚菜桜子（長崎北陽台高校）

P-07 有明海に住むカワゴカイの生殖行動

森崎雄大・°中田吉人・°宅島翔太・津田 隆（小浜高校）

P-08 サンゴ藻の大群落の原因と海水～海水におけるカルシウム濃度に注目して～

酒井麻帆・°杉岡神那・°川島雄太（島原高校）

P-09 水生生物を用いた水質評価法日本版平均スコア法の研究

°石井双葉・°松元美優・°大瀬隼斗・°岩田遥貴・°前田祐希・°嶋崎涼介・°別所陽平・°村瀬寿安（長崎南高校）

P-10 「効果的な水産資源増殖方法の追求」vol. 3～アオリイカ産卵床を利用した海ぶどうの養殖～

°高橋和歌子・瀬川 諒・青山飛鳥・生田達成・川崎 聖・中村真人・濱中仁志・濱脇勇輝・松尾優作・宮崎幸太（長崎鶴洋高校）

P-11 長崎県野母崎三和地区の水産業を守る～コロダイを付加価値のある魚に！～

°本田拓郎・山田周平・村田泰希・右田真望（長崎鶴洋高校）

P-12 長崎県野母崎三和地区の水産業を守る②～天然マダイの不可食部を用いた「鯛めしのもと」の開発～

°池田茉那美・猪野凌平・山田龍太・脇山雅弘・原 悠記（長崎鶴洋高校）

シンポジウム

テーマ 水産物、水産加工品の高付加価値化のための品質測定・評価手法の開発
はじめに

水産物、水産加工品の高付加価値化のための必要条件

村田昌一（長大水）

1. 簡易測定器による非破壊での魚の脂質含量測定について

久保久美子（長崎水試）

2. 水産生産及び加工現場における鮮度測定の可能性

谷山茂人（長大水）

3. 簡便、迅速な現場対応型品質測定機器の開発

野間慶一（フジデノロ㈱）

4. 高速液体クロマトグラフィーを利用した水産物の品質評価

田中竜介（宮崎大農）

5. 消費者、バイヤーが求める水産加工品とは 谷川昭夫（六次産業プランナー・前長崎漁港水産加工団地協同組合）

総合討論

平成 28 年度日本水産学会近畿支部例会

日 時 平成 28 年 12 月 18 日(日) 12:00～18:15

場 所 京都大学農学部総合館 N283-285 号室

プログラム

特別講演「先達の知恵と経験を若手・中堅水産研究者と技術者へ

講演 1 プラクトンから都市へーおおさかの海と川に育まれて

矢持 進（大阪市立大学名誉教授）

講演 2 森里海連環の世界を拓くー有明海と三陸の水辺から

田中 克（京都大学名誉教授）

研究発表

（座長 三田村啓理）

大阪湾におけるアカガイの分布

大美博昭・〇辻村浩隆・佐野雅基（大阪環農水総研）

大阪湾産マコガレイの再生産成功率の経年変化

大美博昭（大阪環農水総研）

東京湾におけるマコガレイの産卵回遊経路の把握

（M 区分）〇樋口裕人・三田村啓理・西澤秀明（京大院情報）・荒井修亮（京大フィールド研セ）・石井光廣・梶山誠（千葉水総研セ）・堀 正和（水研機構瀬戸内水研）

キハダの群れにおける光刺激への行動反応

（M 区分）〇高本悠介（京大院情報）・野田琢嗣（統数研）・市川光太郎（京大フィールド研セ）・福田漢生・藤岡紘（水研機構国際水研）・高木淳一（京大院情報）・荒井修亮（京大フィールド研セ）・三田村啓理（京大院情報）

バイオテレメトリーによるマナマコ *Apostichopus japonicus* の高水温期の移動生態および夏眠場所の解明

（M 区分）〇古川元希（京大院情報）・澤田英樹（京大フィールド研セ）・三田村啓理（京大院情報）・益田玲爾・荒井修亮・山下 洋（京大フィールド研セ）

(座長 山下 洋)

大分県国東半島における森里海連環—陸起源懸濁物質の海域への流出—

(M区分) ○橋口峻也・神崎東子(京大院農)・笠井亮秀(北大院水産)・田村勇司(大分県水産振興課)・山下 洋・荒井修亮(京大フィールド研セ)

大分県国東半島における森里海連環—ニホンウナギを指標として—

(M区分) ○神崎東子・橋口峻也(京大院農)・原田真実(京大院地球環境)・鶴川亮太・望岡典隆(九大農院)・田村勇司(大分県水産振興課)・山下 洋(京大フィールド研セ)・荒井修亮(京大フィールド研セ)・笠井亮秀(北大院水産)

ウナギの石倉漁と資源保護に関する研究

(M区分) ○原田真実(京大院地球環境)・神崎東子・橋口峻也(京大院農)・望岡典隆・鶴川亮太(九大農院)・清水夏樹・横山壽(京大森里海連環ユ)・笠井亮秀(北大院水産)・田村勇司(大分県水産振興課)・山下 洋(京大フィールド研セ)

(座長 細谷和海)

シーボルトコレクションに見る江戸時代後期の金魚育種事情

○根来 央(神戸市在住)・Martien van Oijen(オランダ・ナチュラリス博物館)・細谷和海(近大農)

淀川水系木津川に定着する外来魚コクチバスの現状

○小西雅樹・高松信也・山田卓也・羽多宏彰(近大農)・川瀬成吾(大阪環農水総研・琵琶湖博)・細谷和海(近大農)

報酬訓練におけるマアジの学習能力の個体差

(D区分) ○金子三四朗(京大院農)・益田玲爾・山下 洋(京大フィールド研セ)

(座長 江口 充)

HUP1 遺伝子導入による微細緑藻への糖利用能付与

(M区分) ○森川盾毅・浦口裕介・三田将平・中川 聡・澤山茂樹(京大院農)

CRISPR/Cas9 System による高効率で正確なノックインを可能とするベイト配列の探索

(M区分) ○村上 悠(京大院農)・米村明莉(京大院農)・安齋 賢(遺伝研)・木下政人(京大院農)

ゲノム編集技術 CRISPR/Cas9 を用いた筋肉増量マダイ系統の作出

(D区分) ○岸本謙太(京大院農)・鷲尾洋平(近大水研)・豊田 敦(遺伝研)・吉浦康寿(水研機構瀬水研)・家戸敬太郎(近大水研)・木下政人(京大院農)

田辺湾の養殖場水域およびそれに隣接する干潟域における細菌群の細胞外酵素活性

(M区分) ○井口博紀(近大院農)・藤田 幹(三井共同建設コンサルタント)・山本竜次・井上太一・鈴木俊範・谷口亮人・江口 充(近大農)

「優秀発表賞」表彰

懇親会

訂正とお詫び

平成 28 年度秋季大会大会委員長 太田博巳

日本水産学会誌 83 巻 1 号にて報告させていただいた平成 28 年度日本水産学会秋季大会の座長名一覧表について、春季のものを誤って掲載しておりました。正しくは、下記の先生方にご協力をいただきましたので、謹んで訂正させていただきます。この度は、関係者各位に大変なご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます。

座長名一覧表

第 1 会場		
講演番号	氏 名	所 属
101~102	田上 英明	水産機構水大校
103~105	毛利 雅彦	水産機構水大校
106~108	内田 圭一	海洋大
109~112	北門 利英	海洋大
113~115	鈴木 健吾	水産機構北水研
116~118	小島 隆人	日大生物資源
119~122	望岡 典隆	九大院農
123~127	木村 伸吾	東大院新領域/大海
128~130	宮崎多恵子	三重大院生資
131~135	秋山 信彦	東海大院海洋
136~138	千村 昌之	水産機構北水研
139~141	白藤 徳夫	水産機構東北水研
142~145	渡邊 俊	近大農
146~150	早川 淳	東大海研
151~153	江口 充	近大農

第 2 会場		
講演番号	氏 名	所 属
201~203	芳賀 穰	海洋大
204~206	ビッシャシュアマル	近大水研
207~209	家戸敬太郎	近大水研
210~212	坂本 崇	海洋大
213~215	吉浦 康寿	水産機構瀬水研
216~218	名古屋博之	水産機構増養殖研
219~221	阿川 泰夫	近大水研
222~224	木下 政人	京大院農
225~227	土橋 靖史	三重水研
228~231	山崎 康裕	水産機構水大校
232~235	阪倉 良孝	長大院水環
236~239	萩原 篤志	長大院水環
240~242	佐藤 秀一	海洋大
243~245	舞田 正志	海洋大
246~248	中瀬 玄德	近大水研

第 3 会場		
講演番号	氏 名	所 属
301~304	良永 知義	東大院農
305~308	白樫 正	近大水研
309~311	福代 康夫	東大院農
312~315	山口 峰生	北里大海洋
316~318	山口 晴生	高知大農
319~322	足立真佐雄	高知大農
323~326	田中 礼士	三重大院生資
327~330	杉田 治男	日大生物資源
331~333	澤辺 智雄	北大院水
334~336	岡崎恵美子	海洋大
337~339	齋藤 洋昭	石川県大
340~342	尾島 孝男	北大院水
343~346	松宮 政弘	日大生物資源

第 4 会場		
講演番号	氏 名	所 属
401~403	落合 芳博	東北大院農
404~406	塩崎 一弘	鹿大水
407~410	池内 俊貴	長浜バイオ大
411~414	吉崎 悟朗	海洋大
415~418	加川 尚	北大院理
419~422	朝比奈 潔	日大生物資源
423~425	木村 郁夫	鹿大水
426~428	大泉 徹	福井県大海洋生資

第 5 会場		
講演番号	氏 名	所 属
501~502	濱田 友貴	長大院水環
503~505	嶋倉 邦嘉	海洋大
506~507	今野久仁彦	北大院水
508~509	今野久仁彦	北大院水
510~513	上田 智広	岩手県水技セ
514~517	中谷 操子	東大院農
518~521	加藤 早苗	鹿大水
522~525	宮崎 泰幸	水産機構水大校
526~528	菅原 和宏	滋賀水試
529~530	若松 宏樹	水産機構中央水研

会員の所属変更

(平成 29 年 1 月・2 月の会員からの異動連絡を元に作成していますので、実際の異動月とは異なる場合があります。)

会 員 名	異 動 前	異 動 後
相 木 寛 史	石川水総セ	石川県庁
安房田 智 司	新潟大学	大阪市立大学
上 野 康 弘	水産機構水工研	水産機構中央水研
亀 井 勇 統	佐賀大農	鹿児島県立短期大学
倉 島 陽	東大院理	国立科学博物館
杉 本 親 要	琉球大理	沖縄科学技術大学院大学
高 原 英 生	水産機構日水研	(一財)函館国際水産・海洋都市推進機構
田 口 美緒子	水産機構国際水研	(一財)日本鯨類研究所
手 賀 太 郎	福井水試	福井県庁
永 澤 亨	水産機構北水研	水産機構西海水研
野 田 琢 嗣	京大院情報	統計数理研究所
平 井 俊 朗	帝京科学大学	岩手大三陸水研セ
宮 田 直 幸	東大気海洋研	千葉水研セ
三 吉 泰 之	大分県北部振興局	大分県中部振興局
鷺 尾 洋 平	京大院農	近大水研白浜

会
報

訃 報

下記の会員がご逝去された旨、ご連絡をいただきました。
ここに謹んで哀悼の意を表し、ご通知申し上げます。

名誉会員 小泉千秋 氏
(平成 8・9 年度会長, 昭和 63~平成 3, 平成 6~平成 9 年度理事,
昭和 62, 平成 4・5, 平成 10・11 年度評議員, 平成 8 年度春季大会委員長)